

或る演劇理論の『小野派一刀流型』的展開

—— 演武による生の充足感の追求 ——

吉野 櫻雲

（福田恆存先生の御霊に捧ぐ）

えー、これより小理屈でお耳を煩わせますが、ひとつお付き合いの程を。

20代の頃から約30年弱、評論家、故福田恆存氏の著作に親しんできたのですが、その内の幾つかの評論、しかも演劇に関する文章にふれるたび、何故か、剣道、主に小野派一刀流の型への置き換えが念頭に湧き、おもしろい展開がはかれるような気がしてならなかったのです。

以下、思いつくままに、著作（主に『人間・この劇的なもの』『せりふと動き』）より拝借して書き移し、その後ろに〔 〕で私的解説を施して参ります。尚、著作は『福田恆存全集（文芸春秋）』に在中。尚『人間・この劇的なもの』は「中公文庫」でも発行されております。
